

# イブニングサイトビジット ヴェルデ

2013年8月19日(月) 18:30~20:00

栃木県茂木町 田中のり子

## ヴェルデの取組みについて

皆さん、こんばんはアランです。2005年からヴェルデを運営しています。ヴェルデは、環境保護と貧困層の支援を目的とした団体で、環境保護の仕事を生み出し、ラティーノやネイティブアメリカンなどの貧困層に対して職業も提供しています。

それ、まで環境保護、持続可能などの考えは、低所得者層にはありませんでした。また、ビジネスの世界にも少なかったです。この取組みが成功することは、イコール、環境保護と低所得者対策を同時に解決できるのです。誰も信じてくれませんでした。今ではこれが一番正しいと信じています。これが、「イノベーション（環境保護×貧困者対策）」なのではないでしょうか。

環境保護に関する事業を立ち上げて仕事を作り、低所得者地域にインパクトを与えました。そして、どうすれば行政にインパクトを与えられるかも考えました。

## 草の根と口コミで広がるコミュニティ

環境の仕事をする低所得者が、仲間に「いい仕事があるよ」と伝えるなど、口コミの効果も出ています。アウトリーチ活動や仕事のトレーニングを通じて、コミュニティもまとめています。

草の根団体だけでなく、他の貧困層団体、移民、ラティーノ、ネイティブアメリカンなどがまとまって活動しています。そして、ピア・パートナーとして、行政に働きかけています。

行政に環境保護の話を持って行き、それが施策として取り上げられると、低所得者層への仕事として戻ってきます。また、川の公害防止や植林活動など、行政以外の企業団体とも協働ができるのです。

## コミュニティが行政を変える

行政の企業などに対する環境分野での方針転換により、結果的に低所得者層が潤うようになりました。古い考えを持つ投資家なども、貧困層にも目を向けてくれるようになりました。

ヴェルデをはじめ、他の団体が注目され始めたのは、予想していなかったことです。このように注目されることで、他の行政部門などに対しても活動がしやすくなりました。

## **1 × 1 = ∞**

他団体と協働することで、いくつかの行政方針を変えることができました。

一つは、ポートランド市環境保全局に対して、エコルフにより下水への負担を軽減させる取り組みへの補助金のプログラムに、営利と非営利のどちらからも申請できるようになったことです。今までは、環境分野の補助を申請する場合、環境に対する取り組みを効率的に運営できることだけを説明すればよかったのですが、今はその他に、地域にいかに関与を生み出すか説明することとなっています。つまり、コミュニティにどれだけ利益を出すことができるか、説明する必要があるのです。

ハシエンダという、低所得者層に住宅を提供する団体とも協働しています。彼らのおかげで、サッカー場の屋根を付けることができました。「1% for green」を活用し、公園に続く道路の整備も可能となりました。

アウトリーチ活動やアドボカシーを通して、単独のコミュニティではできなかった「コミュニティデザイン」のレベルまでできるようになりました。ヴェルデという企業体が、この地区に利益を生み出す歯車となっているのは確かな事実です。ヴェルデの運営方針は、私が決めています。ハシエンダ、ネイティブアメリカン、有色人種などのコミュニティと連携するための専門スタッフもいます。ポートランド内で6つの有色人種グループ、30のコミュニティを束ねている団体とも連携しており、その団体から請われて昨年参加しています。

## **ヴェルデが変えたもの**

- 1 助けが必要な場合のパートナーシップ
- 2 ピアコミュニケーション 仲間組織との連携
- 3 地区のニーズ 貧困対策

以上の3分野で、ヴェルデは環境問題のエキスパートとして各コミュニティを援助しています。貧困地区と民間企業の両方に、環境に関するエキスパートがいなかったため、それをヴェルデが担っています。

## **新しい公園を生み出す底力**

カリーパーク地区は、ポートランドの中でも公園の整備が遅れていた地区です。25エーカーのごみ埋め立て跡地に公園の整備の予定はあっても、整備に費用がかかりすぎるため後回しになっていました。

現在整備を予定している「ララス・ビル・パーク」は、

- 1 (地域の人に対して) 「公園を整備しましょう」
- 2 (何もしない市行政に対して) 「私たちに公園を整備させてください」

という二つの意味を持っています。

この公園は、ヴェルデが整備する予定です。このことは、この地区の人々に、希望を与えるはずですが、なぜなら、みんな「自分たちでは何もできない、変わらない」と考えていますが、公園整備を通して自分たちが変われることを実感し、未来への希望を見出すことができるからです。そのため、地元の人たちに設計してもらう予定です。

## 野菜とマンパワーを生み出すコミュニティガーデン

地区内にはスーパーマーケットもなく、新鮮な野菜を手に入れることが難しいので、公園整備に先行してコミュニティガーデンを整備しました。

作るにあたっては、地元中学校の協力を得て、中学生によるデザインワークショップを開催しました。そして、できあがった案を教会で発表しました。

建築は、黒人コミュニティの中の建築業者に依頼し、若い女性に対して建設業の職業訓練を行う団体の協力を得ました。ヴェルデは、土台だけを作り、そのあとは地域の住民ががんばるようにしています。公園整備予定地近くの住民は、パッションを持っていたのですが、それを発揮する場がなかっただけなのです。

公園を整備する時は、地域の貧困層にお金が回るようにし、ドッグパーク、サッカー場のほか、ネイティブアメリカンの集会所も整備する予定です。ネイティブアメリカンからの要望により、彼らの儀式で長老が使う薬草も植えており、毎年1エーカーずつ増やしています。アドボカシーがポリシーを作り、投資を生み、さらに価値を生み、そしてヴェルデが公園整備につなげました。

地域レヴェルデ、環境分野の投資を集中的に行うことを、エコディストリクトと呼び、日本にも「エコディストリクト名古屋」という団体があるそうです。

## ヴェルデのネクストステップ

ヴェルデの次のステップは、公園を所有している公園局、メトロ、市と、複雑になっている関係者とパートナーシップを築くことです。必要性があれば常に変化し、一年前の自分たちと大きく違っていいと考えています。

